

平成 22 年度 第 11 回印西地区次期中間処理施設整備検討委員会 議 事 録 (概 要 版)

日時 平成 23 年 2 月 17 日 (木) 午後 2 時から

場所 印西地区環境整備事業組合 3 階 大会議室

出席者

学識経験者：横田委員、藤吉委員、安田委員、荒井委員

関係市町村住民：小山委員、辻川委員、小玉委員、中川委員、森委員、岩井委員

関係市町村衛生担当課長：堀江委員、平井（代理）委員、山崎委員

印西地区環境整備事業組合：中澤委員、服部委員

欠席者

なし

[事務局] 高橋主幹、海老原（進行役）、黒田

[パシフィックコンサルタンツ株式会社] 新井、米田

[傍聴者] 4 名

会議次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 報告
4. 議事
 - (1) 事業方式の検討結果
 - (2) 事業スケジュールについて
 - (3) 施設基本計画について
 - (4) その他
5. 閉会

配布資料

- ・資料 1 事業方式の検討結果
- ・資料 2 事業スケジュール
- ・資料 3 印西クリーンセンター次期中間処理施設整備基本計画（案）
- ・追加資料 資源化施設（リサイクルセンター）についての方向性
- ・追加資料別紙 費用算定

議 事

1. 開会

- ※欠席者の報告
- ※配布資料の確認

2. 委員長あいさつ

- ※議事録署名人の決定

3. 議事

(1) 事業方式の検討結果

※資料1の説明

[委員長] ありがとうございます。ご質疑のある方は挙手とお名前をお願いします。

[A委員] 意見として、まず1ページ目の「SPC」には、分かりやすいように注釈を追加したらどうか。また、4ページ目の中間にある「総合評価落札方式」の意味もどこかで説明した方がいいと思う。それから質問だが、2ページに「長期委託契約」とあるが、何年ぐらいを考えて長期と言っているのか。

[コンサルタント] ご指摘についてはごもっともだと思うので、修正したいと思います。それから、「長期包括運営委託」については、毎年更新をしている従来の契約方式に対してある程度長期ということで、一般に新設であれば15年から20年、既設の場合には10年とか5年等、色々なケースがあります。

[A委員] 今回は新設だから15年以上というイメージか。

[コンサルタント] 次の建替なり大規模補修が必要になる時までを一区切りとして、15年間以上というところです。

(2) 事業スケジュールについて

※資料2の説明

[委員長] ありがとうございます。ご質疑のある方は挙手とお名前をお願いします。

[A委員] このスケジュールは非常にタイトだと感じる。施設の基本設計、事業者選定とアセスが同時進行になっているが、このスケジュールでアセスの結果が設計に反映されるのか。それから、例えば「排出ガスの自主規制」や「排水の規制」等の排出基準については、まず住民が納得した公害防止協定値を決めて、それをターゲットにして基本設計やアセスをやっていくべきではないのか。

[コンサルタント] 1点目のアセスの結果が設計に反映されないというご指摘ですが、従来は、計画がいいか悪いかをアセスで検証する流れとなり、このスケジュールは従来方式にのっとったものになっています。ただ、最近のアセスの法律改正で、いわゆる戦略アセスが出てきており、それはまさにA委員がおっしゃったような、アセスの予測に見合うように施設を変えていくという考え方になります。この計画については戦略アセスの考えは取り込んでいませんが、条例の変更等があった場合にはそれに合わせてスケジュールを組み直す形になります。それから、基準を条件として決めてからアセス

をやるべきというご指摘について、全くその通りだと思いますが、予測・評価は平成25年2月から平成26年8月までとなっており、それが始まる前までに住民との協議を終えて基準を決めればいいので、まだ時間があるという考え方が1つです。また、委員会の中でも議論した排ガス基準等をもってアセスを進めることになりますが、住民の方との協議によって数値が変わるとすれば、これよりも厳しくなるはずで、それは予測を行う上では問題ありません。アセスは排ガス等の規制値を基準に進め、さらに住民との協議も並行して進めるので、厳しい数値になった場合であってもスケジュールとしてはそのままいけるという考えです。

[A委員] アセスについてはそれでいいのかもしれないが、2の施設基本設計については、やはり住民合意をとった排出基準が決まってないと仕様書も書けないし基本設計もできないので、最低でも平成24年には決まっている必要があると思うが。

[B委員] 追加意見だが、結局ニュータウンの中に造ることになるので、最初から市民がしっかりと意見を言う機会を与えていただきたい。また、現段階では戦略的アセスを採用してないとのことだが、印西にふさわしい、先進的なクリーンセンターを造るのであれば、やはりそういうことも取り入れていくことが大切であると思う。

[C委員] 「3⑦公示・縦覧・説明会」について、説明会は住民に対するものだと思うが、地元の詳細を得られずには出来ないと思う。これは国や県がやるのか。

[事務局] まず周辺住民の方のご意見ということですが、当然おっしゃる通りだと思います。来年度は、今作成している基本計画の案についての説明会の開催を考えています。アセスの方は、手続きは県で行い、説明会等は事業者が開催します。どちらの説明会も、できるだけ早く開催したいと考えています。それから、B委員からのご意見である対象とする周辺住民についても当然決める必要があります。例えば、現在地であれば環境委員会を通して住民のご意見を伺い、公害防止協定の数値や施設に要求する内容を整理したいと考えています。特に一番問題となる公害防止協定の数値については、アセスの基準以上とするか否かについて、住民との話し合いの中で決めたいという趣旨です。

[A委員] それであれば、このスケジュールに「住民との協議」とか「公害防止協定（案）の作成」を入れて欲しい。でないと、今おっしゃった中身がここに全然反映されてないということで、住民が非常に不安がると思う。大事なことなので。

[委員長] 項目別にもう少し細かいスケジュールを作ってほしいということか。

[A委員] 要は住民との合意なり話し合いというポイントを明示してほしいということである。

[B委員] 住民への説明という項目を入れてほしい。

[D委員] ⑦の始まる時期をもっと少し早くして、詳細を取り入れてほしい。

[事務局] ご指摘の通り、住民との話し合いのスケジュール欄を設けたいと思います。環境影響評価の予測・評価の手前の準備書に必要な項目ですので、概ね平成24年度末には必要となります。したがって、平成25年度の中期までかかるとして、来年度の中期から2ヵ年程度、できれば早くやりたいとは思いますが、スケジュールに入れたいと思います。

[D委員] 地域住民に対しての説明会は、地元だけではなく全構成市町を対象としてほしい。

[事務局] 基本計画の説明会は、今のところ大きな会場を借りてできるだけ皆さんが寄って来

られるような形を考えているため、周知の対象は構成市町等になると思います。

[委員長] その場合の住民説明会は、このアセスの条例に基づく説明会ではなく、また、仮に場所がまだ決まっていなくても、かなり広く住民との意見交換を行うという主旨か。

[事務局] アセスのプロセスと重複する場合にはそちらと一緒にということも考えられますが、とりあえずは、場所が決まった上で基本計画の説明をしたいと思っています。

[B委員] 公害防止協定の意見交換会等の範囲については、あまり狭い範囲に限定しない形で進めてほしい。

[事務局] 説明会といっても色々ありますが、アセスの説明会については影響範囲ということで決められており、八千代市や船橋市等も対象に入るので、各市町村の広報等にご案内いただき周知します。それから、公害防止協定の数値の話し合いの範囲は、場所等決まった後、例えば現在地であれば環境委員会に話をしていく等を決めていきます。

[委員長] よろしいか。この次の基本計画の説明の後、また何かあればご意見を伺いたい。

(3) 施設基本計画について

※資料3の説明

※追加資料の説明

[A委員] 総合的な観点からの意見だが、千葉県が改定を進めている廃棄物処理計画書で、一般ごみを2008年度から2015年度までに5%削減という目標が出ていた。私どものごみ処理基本計画では、15年までに1人1日あたりの家庭系ごみ量を517gに減らすという目標だが、県の削減率を採用すると495gになる。さらに、県ではリサイクル率30%以上を目指すとしているのに対し、ここは現在23%程度、目標でも24%となっている。これを受けて、我々はもっと大胆にごみを減らす必要があると思う。基本計画では、平成25年時点のごみ発生量を見て将来のごみ処理施設の能力を決めることとなっているが、25年までの3年間の間に大規模なごみ削減計画を実行しないと、県の目標は達成できないと思う。それで提案だが、組成割合で47%も含まれている紙のうち雑紙をリサイクルに回す。また、事業系ごみも紙がかなり多いと聞くので、機密書類について、ダンボールごと製紙会社で溶かす方式を採用してリサイクルに回すのがよいと思う。今の基本計画の文章では熱意がどうも感じられないので、大幅にごみを減らす、色んな対策をとる、という文言が欲しい。それから、印西市の容器プラのリサイクル費用について、選別・梱包の会社にお金を払い、なおかつ容器包装リサイクル協会にキログラムあたり50何円もお金を払っており、運搬費まで考慮するとトン10万ぐらいかかると聞いた。それで、コークス炉化学原料化・ガス化・油化等としており、結局は燃やしてエネルギーとして使っている。ガス化や油化は多くのエネルギーを要し、廃プラは本来そんな形でリサイクルすべきではないとの見識者も結構いる。一方、ここで焼却処理するとトン3万5千円で済み、しかも熱回収すればその分が浮く。そのため、我々は将来、廃プラは全部ここで燃やし、その熱エネルギーを使って電気なり地域冷暖房に使うべきだと思う。そうすればコストも安くなり、熱効率も良くなり、CO₂の削減にもつながる。その分燃やすごみが増えることについては、環境省や県に、サーマルリサイクルは資源化であると認定していただく。すると、容器包装リサイクル協会がメーカーから徴収しているお金を少し分けてもらうこともできるのではない

か。これが本来あるべき姿であると思う。

[B委員] 同様の意見だが、まず減量化について、日本は温暖化防止のために 20%以上CO₂を削減すると世界に約束している。また、公害を出さないために大きな炉は造らないという意味でも、ごみ減量化を徹底する必要があると思う。その点で、一般家庭でどの品目が減量できるかを考えるのはとても大切だと思う。ごみ減量推進審議会でもきっちり検討していただくとともに、例えば地元説明会の時に合わせて啓発する等戦略を立てた方がよい。紙ごみについては先程意見があったが、ほかに剪定ごみも重さや熱効率からいって非常に大きいものがあり、そういうことももう1回立ち戻って考えるべきだと思う。もう1つ、先程の容器包装リサイクル法に関して、ごみを出す市民側からすると、一所懸命洗って出しているのに実は燃やされていると聞くと無力感を感じるとの話をよく聞く。担当に聞くと、分からないが洗うことが原則なので洗ってくれという回答しかもらえない。そのため、リサイクルの方法をきっちりと決めて、市民が不信感を持ったり協力を拒否したりしないよう納得のいく説明をしてほしい。それで、リサイクルの目的はCO₂削減であり、環境負荷が大きくなるのでは全く意味がない。洗う手間や運ぶコストも考えて、よい方法があるのではないか。A委員から話のあった方法に、私は非常に共感できる。

[委員長] もちろん一般廃棄物処理基本計画にはそういった削減のコンセプトが盛り込まれていると思うが、この中間処理施設整備の基本計画からも多少そういうニュアンスが汲み取れるようにしてもらいたいのご意見だと思うが。

[A委員] 廃プラのリサイクルについて、専門の先生方のご意見も聞きたい。

[E委員] 廃プラについては結構議論がされており、中でもその他プラについて1番多い。マテリアルリサイクルの場合、半分近くは残渣として燃やしているか埋めているかのどちらかである。マテリアル以外ではコークス炉化学原料化が主であり、焼却炉で燃やすのとほとんど変わらないのにコストが高い。そのため、最近ではむしろ燃やして熱利用の方が有効なのではないかという意見も強く、LCA 評価等でもそのような結果が出ている。もちろん全体のごみの減量化は大事で、それと合わせての実施が極めて重要である。

[A委員] なぜ自治体が容器包装リサイクル協会にお金を払わなくてはならないのか。

[E委員] 分別の中身によって事業化の時のお金のかかり方が違う。分別が悪いと手間がかかる分お金もかかる。私としては、ここで燃やした方がおそらくコスト的にも量的にもいいだろうと思う。

[副委員長] 容器包装リサイクル法は、ご存知のように国を挙げて色んな議論がされており、さらなる推進のために改正もされてきている。考えなければならない点として、1つ目は、拡大生産者責任という考え方をごみ処理の中に入れていこうという流れである。今自治体に運搬を頼っている部分についても拡大生産者責任の方へいくべきだという考え方は、確かに筋が通っていると思う。その上で、不合理な部分をどうやってさらに効率化していくかという考え方をしなければならない。

[A委員] 具体的にどうしたらいいのか。

[副委員長] それをみんな探しており、今あるデータ等で決めてしまうのか、もう少し将来の展望をもって進めていくかという議論が、もう1つ言えると思う。それから、こうい

う会議ではどこでもものすごく議論になり、四日市市は私も減量推進員だが、プラはリサイクルしない方向性になった。しないのはいいのだが、容器包装を設計段階で変えていく工夫をやらせないと意味がなく、それを言わないのはおかしい。そういう意味では大変な議論であり、減量推進審議会等で議論をもう1回やってもらえばいい話であって、こっちに蒸し返す話ではないというのはある。組合でなく構成市町に言うべき話であり、議論する場の問題である。

[F 委員] 制度的な問題は国も業界団体もまだ整理中だと思うが、ハードという点で社会経済的に考えると、焼却炉で燃した方がはるかにコストが安くなるのは間違いないし、それを薦めている学者先生方もいる。先日鳥取県に、プラスチックのサーマルリサイクルについて施設的に対応できるかの話をしたのだが、発電設備も十分にできているし、施設としての環境対策も十分にいける段階になっている。あとは国や業界、地方自治体に、制度をどうするかという問題についてやってもらえれば、ここで受け入れるのはいつでも可能だと思う。

[E 委員] ごみの減量についてここで議論すべきかというのは当然あると思うが、今あちこちでされている基本計画の作り直しの議論を見ると、リーマンショック以降どこでもごみが減っている。将来ごみ量は過去の実績から予測するところが多く、それによると簡単にごみが減る予測が出るが、色んな自治体のデータを見ると家庭系ごみはそんなに減っていないことは、現実として見ていく必要があると思う。全体のごみをどう減らすかに関しては、事業系は規制がかけやすく量も多いので、そちらとうまくバランスを取るとよい。県の基本計画は指針のようなものであり規制ではないので、各市町村が必要な中で詰め込み、どの部分で減らすのが効果的か、コスト的にどれがいいのか等を加味すればよい。もちろん減らせる部分は減らしていくべきだが、ここまで下がっているからここまでしなくてはいけないとするのは、数値によっては厳しいという気がしている。

[A 委員] そんなに無理することはないが、リサイクルできるものをしていなかったら、やはりした方がいいのでは。ちょっとした分別なので。

[E 委員] コストバランスも踏まえて議論した方がよいかと。

[A 委員] 千葉市は、3つの焼却施設のうち1つが老朽化しているが、ごみを3分の1減らせば新設の必要がないとのことで、雑がみをターゲットにしてかなりの成果を挙げていると聞いているので、意見を述べた。こっちは雑がみをリサイクルに回してないので。

[E 委員] ただ、資源ごみを含めて全体でどれだけごみが減ったかという評価が大事である。横浜市は、方向転換して全体で見ていくということである。

[A 委員] 我々は今、燃やすごみを減らさなければいけない。だが、全体を減らすのは3Rの最初のリデュースの話であり、1番大事である。

[E 委員] リサイクルは残渣が出てくるので、それがなるべく少ない方がいい。だから、全体としてどうするという議論は必要である。

[委員長] 基本計画から外れて難しい問題になっていったが、やはり理念としての考え方と、実際問題としてF委員のご意見のような1番安上がりな方法という点での考え方の両方がある。どちらも大切で、国等の立場からすれば拡大生産者責任や資源の無駄をなくす、あるいは地球温暖化防止ということから始まり、では廃棄物処理はどうあるべ

きかという理念の考え方がある。これはこれで非常に大事だが、一方では、地域社会から毎日出るごみをどう安全無害に処分するかという問題がある。今、私どものやっている次期中間処理施設整備計画は、日々出てくるごみを当面どうしたらいいかという非常に末端の部分なので、いかに安く衛生的に処分するかが、この委員会での1番中心的な課題になると思う。ただ、この基本計画の中でもそういうニュアンスがどこかに滲み出る形にしてもらいたいという意見だと思うが、事務局からお考えがあればお聞かせ願いたい。

[事務局] 色々なご意見ありがとうございました。これは施設の基本計画なので、一文入れるとすれば、6ページの施設規模の見込みに、平成25年度までにきちんとごみの減量や特定品目等の資源化を推進し、その結果をもって施設規模を決めていく、という文言でまとめたいと思いますが、いかがでしょうか。

[A委員] ごみ減量化大作戦とか大きなテーマでやってほしい。それから、23ページのガス化溶融炉の説明に流山市のクリーンセンターの流動床式があるが、ここに去年12月に見学に行ってきた。一番下の「安全・安定性」に「トラブル事例も報告されており、安定性では疑問を残す」とあるが、市の担当者は、最初の時点でスラグ出口が閉塞したトラブルがあったが、原因は耐火物の交換時期を見誤ったからで、適切なインターバルとした以降トラブルはないと話していた。ここは直営運転であり、担当者も非常に自信を持っていたので、評価は今や△でなく○ではないかと思う。それから、スラグの有効利用について、建設当時はまだ溶融スラグのJIS化がされておらず、JIS化された今も該当していないものの、条例を作って市の道路にスラグを全部使っているとの話であった。また、エコセメントについて、市も平成18年まで市原エコセメントに委託していたらしいが、運搬を入れて10tあたり100万であったのが、現在は、北九州市のエコタウンで山元還元方式により飛灰から鉛や鉄を回収し、10tあたり60万に下がったとの話であった。さらに、葉以外の草木類はできるだけ燃やさず、市営の施設で砕いて色んな材料に使ってもらっているとの話であった。工夫すれば色んなことができると感じた。

[委員長] 大変有益な情報ありがとうございました。スラグは市がグリーン購入という形をとるのだと思うが、率先して使うことでこなしている例が多く、そういうところはだいたいスラグの有効利用に成功している。それから、エコセメントは確かに高く、地理的条件等もある。その地域によって工夫の仕方はあり、一辺倒な考えではなく柔軟にやるのがやはり必要だと思っている。他には、基本計画については、またお気づきの点があれば、いつでも事務局にご意見として出していただいても結構であると思う。また、今日のご意見等を踏まえて若干修正していただくことにしたいと思う。

(4) その他

※なし

4. 閉会